

# 戸田市の学力向上策等について



令和元年10月29日（火）  
戸田市教育委員会  
教育長 戸ヶ崎 勤



## さて、どのように教育改革を進めていくか！

### 戸田市の状況と、少し前の戸田市の教育

- ・人口増加が止まらない → **教室不足が深刻**
- ・埼玉都民が多く田んぼも畑も名物ない。
- ・外国人の増加、高い就学援助率
- ・学校の課題・・・学力、体力、非行問題行動、不登校
- ・経験人事で戸田市の学校を希望する教諭等がほとんどいない
- ・管理職登載者不足のため市外から補充
- ・多くの授業が教師主導型のチョーク&トーク
- ・LAN環境なし、ホコリを被ったデスクトップPC など

### （１）生徒指導と学級経営の充実

平成27年4月1日～

- ・ **生徒指導の王道は学力向上にあり**
- ・ **学力向上は学級経営と授業の充実にあり**
- ・ 教師力の向上は学級経営力と授業力の向上から

# さて、どのように教育改革を進めていくか！

## (2) 校長のリーダーシップと同僚性強化

- ・ 凡庸な90点の取組よりも、60点でも**夢のある挑戦**が教育改革を
- ・ 校長が「代われば」学校が変わる。「代」を「変」へ
- ・ 校長会ピアレビューで成果と課題の共有化を
- ・ 授業改善に**例外を出さない指導**を
- ・ 学校全体での**学び合いの風土づくり**
- ・ 一人一人の教員の個に応じた指導を粘り強く継続する
- ・ 挫折回復能力、**識時務**者在俊傑

## (3) 授業改善に向けて

- ・ 「授業改善日」や「授業改善の時間」の計画的な設定
- ・ 「大きく変わった授業を是非見てみたい」という保護者や市民の声にどう応えるか。**素人の目から見てもわかる授業改善**を
- ・ 教師自身がパッシブラーナーからアクティブラーナーへ



## 教育効果を挙げている学校の10か条

- (1) 管理職が学力向上に向け危機意識をもち、強いリーダーシップを発揮
- (2) **学力分析**を丁寧に行い、その結果に基づいた取組を継続して実施
- (3) 全教員が主体的・対話的で深い学びの視点で日々の授業改善に尽力
- (4) **学習規律が徹底**され、認め合い支え合う関係を育成
- (5) 授業や様々な教育活動で**UD化**に基づくきめ細かな配慮を実践
- (6) 学校独自の特色ある取組や共通する指導を、全教職員でやり抜く
- (7) 教員集団が共に学び合う関係性を構築
- (8) 学力向上の直接的な手立てではない教育活動にも共通行動を徹底
- (9) 「**考えて読んで書く**活動や**論理的な言葉のトレーニング**」を徹底
- (10) **家庭学習の習慣化**の育成



# 戸田市の教育改革のコンセプト（議場にて）

## 未来の社会は予測不可能

- ・未来社会は予測不可能性が加速度的に高まり、現在の延長線上にはない

## 教育が社会をリードし地方創生の有効手段に

- ・未来社会は、教育が社会をリードすべき時代。教育を充実し質を高めることは、地方創生とまちづくりの有効な手段。人づくりが、サステイナブルシティを創る

## AIでの代替は難しい力などの育成

- ・AIでは代替できない能力の育成と、AIを活用できる能力、つまり、**21世紀型スキル**、**汎用的スキル**、**非認知スキル**を育成

## 産官学と連携した知のリソースの活用

- ・産官学と連携した知のリソースの活用。それも、**ファーストペンギン**を目指すことで、安価で効率的に、最先端の質の高い教育が提供されるはず



# 教育改革のコンセプトの学校への落とし込み

## （１）社会に開かれた教育課程

- 「社会に開かれた教育課程」は、目の前の社会の要請に受け身で対処することではなく、子供たちや学校内外の力による「**未来の創造を見据えた教育**」の実現を目指すもの
- 変化する社会の動きを教室の中に入れるため、産官学と連携した様々な学び等のメニュー**を教育委員会で用意していく。授業改善、校内研修、研究発表などで躊躇することなくフル活用してほしい

## （２）学び合う職員室に

- 社会構造の変化を各学校で共通認識し、目の前の子供たちの実態を踏まえ、どのような力を育てるか、**学年や教科を横断して根本にさかのぼった議論を**

**児童生徒の出ていく社会を知ろうとしないのは極めて不誠実**



## 教育改革の視点と課題

### つづける、つなげる、つかう

- 教育は、新規に始めることより**続ける**ことの方がはるかに難しい
- 学校同士や教育委員会同士、さらには変化する社会の動きとの**繋がり**が弱いため、教育成果等が横展開や深化されにくい
- さらに、様々な優れた教育実践やデータ等が蓄積されていても、**使われること**が少なく、効率性や生産性が低い

### 「経験と勘と気合い」から「客観的な根拠」への船出

- 教育は国家百年の計、教育の成果は短期間では測れない、**教育に数字は馴染まない、定量化することは序列化を招く**
- 教育のEBPMの重要性とその裏腹の危険性（量的と質的エビデンス）
- 教育のEBPMは施策選択の決定打になるのか？



## 教育改革の視点と課題

### 教室や授業を科学する

教員の急速な世代交代が進行している。採用試験の倍率も低下している。これまでの「とにかくたくさん授業を見る、背中から学べ、習うより慣れる…」だけでは教員が育たない。**優れた教員の経験や勘、そして匠の指導技術を、言語化・可視化・定量化**するなどして、若手教員に**効率的・効果的に伝承**していくべき。**教職員研修も個別最適化**するべき。

今後は、**教員の個人プレーにだけに頼らず**「教室や授業を科学する」していくべきである。「学びの改革」を進める企業のスピードは教育行政とは段違いである。教育とテクノロジーを融合させ（**EdTech**）、新しいイノベーションを起こそうと多くの企業が躍起になっている。産官学民と連携した**最先端技術やデータサイエンス**等を教室の中で積極的に活用し、**学びの効率化やさらなる質の向上**を目指したい。





## 「未来の教室」に必要な要素

- (1) **基礎学力等の習得の効率化**（個別化・デジタル化）
  - ・ **学習の個別化** ⇒ 個人の理解度や興味関心別の学習
  - ・ **学習のデジタル化** ⇒ スタディ・ログなどのデータ化による指導と評価の一体化
- (2) **課題発見・解決力**（社会課題を見つけて動かす力）、**創造力**（無から有を生む力）**を伸ばすプログラム**の充実  
⇒ **PBLやSTEAM教育の充実**

## 継往開来の精神を忘れずに



**我が国の150年の学校教育**には、

- ・ **多様な子供たちの共学、**
- ・ **学び合いや教え合いなど集団を活かした学び、**
- ・ **個に応じた指導や指導と評価の一体化、**

といった学習指導の蓄積がある。

- ・ **教科教育研究、授業研究、「時・場・礼」など基本的な生活習慣の指導など、**世界に誇れる固有の教育財産の蓄積もある。
- ・ **日本型学校教育の特色は、知・徳・体を一体で育むことや、**教科に加え給食活動や課外活動などの広範囲の活動に関わる**全人的な教育**の提供、さらに**学校地域社会の連携**等がある。

今後は、これらの捉え直しや質的転換を図りつつ、若手教員等に効率的・効果的に伝承していくために、EdTechなどにより可視化・共有化したり、教員研修も個別最適化したりしていくべき。

## (1)資質・能力の3つの柱

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」

## (2)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

## (3)カリマネを通じた不断の見直し

- **全ての教職員が参画**、学校全体でカリマネ (input)
- **教科等を学ぶ本質的意義、教科等横断的な視点で**  
内容を組織的に配列
- **学習指導等のスタンダード(型)の守・破・離**
- **学びの効果をエビデンスに基づいて評価 (output)**
  - ・ 教室を科学したり、EBPMによる教育施策の推進
  - ・ 産官学民との積極的な連携

## 戸田市が多くの産官学と連携できているわけは

### (1) 真の協働者に

- 教委や学校が、受益者に陥らず、**自律的な教育意志**をもつ

### (2) EBPMによる効果検証ができる基盤づくり

- **埼玉県学力学習状況調査** (IRT、Panel Data) による「**学力の伸び**」の把握
- 戸田市独自の教職員を対象にした「指導方法等に関する質問紙調査」等のタグ付け
  - **どのような教師の指導方法が成果を上げたのか**
  - **どのような資質能力を備えた教師が成果を上げたのか**

### (3) 学校や教室を実証の場 (Class Lab) として提供し、成果を還元

### (4) 積極的な情報発信

- **情報は発信するところに集まる** → **企業が企業を呼ぶ**  
教育委員会、各学校、校長会、教育長のfacebook  
教育委員会事務局、教育委員、学校管理職がSNSでの繋がり

**産官学と連携し、先端技術を活用し、学びの効率化や質の向上を目指す**





# 戸田市の教育改革の取組 (平成31年度版)

戸田市が目指す  
「世界で活躍できる人間」

世界に関心を持ち、地球規模で未来を考えることができる子  
自分の力を他者や社会のために使いたいという意欲を持つ子  
多様性を理解し、他者と協働して問題の解決に取り組める子



★教育委員会の取組  
★産官学民との連携

SEEP S:STEAM (Science, Technology, Engineering, Art and Math) E:EBPM (Evidence-based Policy Making) EdTech (Education × Technology) PBL (Project-based Learning)

## 1 EBPMの推進

優れた指導法や教育施策を質的・量的の両方の観点で分析し、授業改善や政策立案に生かす。

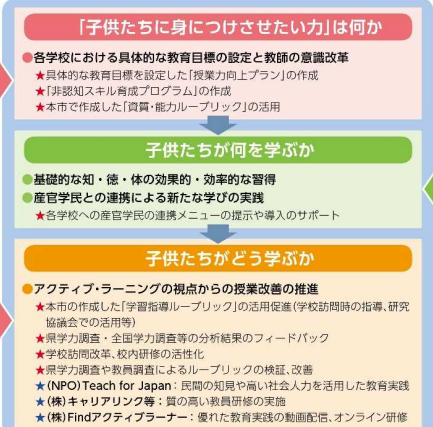
「教育政策シナクタンク」(仮称)設置  
エビデンスベースでの政策づくりを自律的に推進するための組織の立ち上げ  
★多様なスキルを持った教育行政プロの採用

- 外部との共同研究
- ★慶應義塾大学等：埼玉県学力調査の分析による非認知能力と学力の関係など
  - ★筑波大学：特別支援教育に関する研究
  - ★国立情報学研究所、(社)教育のための科学研究所：リーディングスキルの視点からの授業改善
  - ★埼玉教育委員会：県学力調査と教員質問紙調査を活用した優れた指導法の分析
  - ★(株)ベネッセ：「ミライシード」を活用したR-PDCA支援モデル
  - ★(株)LITALICO：①ユニバーサルデザインに基づく学級経営と授業実践  
②ペアレントトレーニングの導入  
③個別の指導計画策定システムの導入
  - ★IGS (株)：GROW!による教育効果の可視化の研究

## 2 「授業力」の向上

これからの時代を生き抜くために必要な力を子供たちに身につけさせるため、授業改善をはじめ、すべての教育改革の取組を教室での子供の学びに結びつける。

アクティブ・ラーニング推進のための「戸田型授業改善モデル」  
本市独自のルーブリックを核として多角的な授業改革の取組を実施する。



## 3 新たな学びの推進

AI(人工知能)では代替できない力やAIを使いこなす力を身につけるため、「21世紀型スキル」「汎用的スキル」「非認知スキル」を育成する。

PEERカリキュラム

P:プログラミング教育

- ★生活科、総合的な学習の時間で一定時数を確保
- ★(株)ベネッセ：教材提供、教員研修
- ★インテル(株)：教員研修
- ★(株)ソニーグローバルエデュケーション：教材提供
- ★サイエイインターナショナル：英検対策講座
- ★(株)CEEジャパン：教材「Bee-Bot」の提供

E:英語教育(中3で英検3級取得率70%以上が目標)

- ★小学校低学年からの実施、モジュール
- ★英検の検定料助成(小6、中3)
- ★教師の英検取得率に関する調査
- ★(株)ソフトバンク コマース&サービス：Musio貸与
- ★サイエイインターナショナル：英検対策講座
- ★香港日本人学校：交流事業、イマージョン教育

E:経済教育(社会の動きや経済の動きについて身近な題材を通して学び、より良い生き方を考える授業)

- ★生活科、総合的な学習の時間で一定時数を確保
- ★(株)CEEジャパン：経済教育の授業の実践、市民大学での経済教育マスター育成

R:リーディングスキル(リーディングスキルの実践把握とその視点からの日々の授業改善)

- ★リーディングスキルの考え方や授業改善事例等をまとめたリーフレットの作成
- ★国立情報学研究所、(社)教育のための科学研究所：リーディングスキルテストの実施、結果の分析と活用

戸田型PBL(プロジェクト型学習)

- ★戸田型PBLの手引きの作成
- ★(財)日立財団：企業講師によるプロジェクト型探求学習プログラム
- ★インテル(株)、(株)リパテス：企業講師のデモを取り入れたプレゼンテーション大会の実施
- ★劇団四季：楽しい日本語の話し方教室

豊かな心の育成

- ★(NPO) Sesame Workshop：セサミストリートカリキュラムの開発
- ★LINE(株)：情報モラル教育
- ★「考え、議論する道徳」の推進、デジタル教科書の活用

体力向上

- ★プロトレーナーによる小学校低学年への体力向上プログラムの実施
- ★プロトレーナーによる部活動サポート
- ★青山学院大学、日本体育大学：体育の授業での大学生のサポート
- ★西武ライオンズ、(NPO)戸田スポーツクラブ：体育の授業等への講師派遣

## 4 EdTechの推進

教育とテクノロジーの融合による新たな学びの推進

- (主にICT環境の整備)
- ★(株)LoLo:「ロイノート」の思考ツールを活用したアクティブ・ラーニングの推進
  - ★Google:タブレット型PC「クロムブック」の3000台導入(小:2000台、中:1000台)
  - ★(株)ベネッセ、(株)富士通ITソリューション:ICT支援員の各学校の定常派遣
- ※その他、「3」の新たな学びをはじめ各取組において推進

## 5 多様なニーズへの対応

一人ひとりのニーズに応じた支援の充実

- (教育相談体制の充実)
- ★東京メンタルヘルス(株)：全小中学校にスクールカウンセラーを配置
  - ★東京メンタルヘルス(株)：教育センターに教育心理専門員、スクールソーシャルワーカーを配置
- (特別支援教育)
- ★専門アドバイザーによる特別支援担当教員の指導
  - ★(株)LITALICO：学校への訪問支援、共同研究
  - ★獨協医科大学：発達障害専門医による医療相談
  - ★筑波大学：特別支援教育に関する研究
  - (日本語指導)
  - ★日本語指導担当教員、日本語指導員の配置
  - (家庭学習支援)
  - ★放課後補習授業
- (不登校支援)
- ★(株)学研教育みらい：教育支援センター「すてっぷ」の体制強化
  - ★ひきこもりの児童・生徒へのアウトリーチ型支援
  - ★筑波大学等：ピアサポーター制度の活用
  - ★(財)こども教育支援財団：不登校対応相談員への研修(いじめ対策)
  - ★いじめ防止基本方針「いじめ根絶トビプロジェクト」
  - ★電話相談、SNS相談の一部導入

# 戸田市 PEERカリキュラムの開発

～21世紀型・汎用的・非認知の3つのスキルを育成する小中一貫カリキュラム～

PEERとは「仲間」や「見つめる」ことを意味し、小・中学校がそれぞれに教育活動を行うのではなく、小・中学校9年間の学びと育ちの連続性を重視する観点から、お互いを「仲間」として「見つめ合う」ことが肝要との思いを込めています。



## P rogramming (プログラミング教育)

平成32年度から小学校に導入されるプログラミング教育にベネッセ、インテル、Google、Microsoft等の企業と連携し、「プログラミング的思考」と呼ばれる論理的に考える力を育みます。



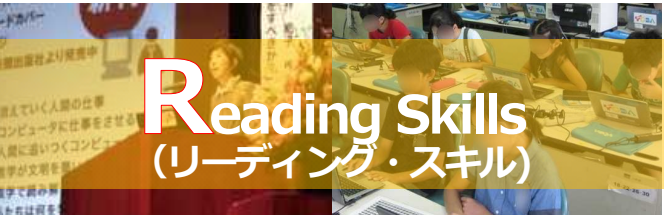
## E nglish (英語教育)

全小中学校にALTが常駐し、小中一環英語教育を推進しています。英語以外の教科等の指導の中で英語を活用する「イマージョン教育」の研究も進めています。小6,中3生に英検等の助成事業を実施しています。



## E conomic Education (経済教育)

一般社団法人CEEジャパンと連携して、「考える習慣」を身に付け、「質の高い選択ができる力」を育みます。難解な経済学や経営学とは異なって、「社会の仕組み」や「経済の働き」について身近な題材を通して体験的に学びます。



## R eading Skills (リーディング・スキル)

国立情報学研究所の新井紀子教授と連携し、リーディング・スキル(基礎的な読む力)に関する研究を行っています。リーディング・スキルと学力との関係について分析し、それらを効果的に向上させる指導法の開発などを進めています。

# R 戸田市リーディング・スキル（基礎的な読む力）育成プラン ～すべての児童生徒が教科書を読めるようになるために～

リーディング・スキル：未知のテキストを読み、未知の概念と自分の知識とを理論的に結びつけながら理解していく力

人工知能（AI）が様々な職業を代替していく時代に向かうために

## 授業改善

- ・「正解を当てる力」を付けるだけの学校教育からの脱却
- ・「AIでは代替することができない能力」の育成
- ・AIには難しいと言われる「意味がわかって考える力」の育成



国立情報学研究所

共同研究

戸田市教育委員会



○リーディング・スキル・テストの実施（市内全小6生及び全中学生・希望する学校の教員）

- リーディング・スキル・テスト結果の分析
  - 全国及び埼玉県学力・学習調査との相関について
  - リーディング・スキルの高い児童生徒の学習状況等

- 教員研修会の開催
  - 戸田市RS研究員による授業研究会
  - 戸田市立センター研究員RS部会における授業案づくり（勤務時間後の自主的学習会）
  - 管理職や教員対象のRS研修会の開催



## 戸田市立教育センター教科等研究グループ

○市内小中学校教諭159名（約30%）が手弁当で研究等に当たっている。戸田市の**教育改革を支える屋台骨**となっており、**誇り**であり**宝**である。

○各部会（11部会）

国語・書写、社会、算数・数学、音楽、保健体育、外国語活動・外国語、特別支援教育、特別活動、**プログラミング・STEAM教育、リーディングスキル、イノベーション教育・PBL**



- ・21世紀スキル教育アドバイザー 3名
- ・PBL・STEAM教育アドバイザー 2名
- ・学校経営アドバイザー 1名





## RS向上に向けた取り組み①

### 研究員による問題作成を通じた研修

センター研究員による問題作成  
 (自主的な勉強会)  
 H27...約50名 H28...約90名 参加



### 戸田市教職員専門研修会



#### RSTを活用した授業づくり研修会

- 参加者によるRSTの実施
- 国立情報学研究所 特任研究員による御指導 (RSを育む授業づくりについて)
- RST作問演習の実施



## 2-2 RS向上に向けた取り組み②

### RSを育む授業を考える

～市内研究委嘱校を中心とした授業研究～

戸田市リーディングスキル向上のための授業研究会

- 国立情報学研究所 教授 新井紀子 先生考案による授業実施
- 戸田市内小中学校教員による研究協議
- 戸田市の子供たちが苦手としている2つの観点

**「イメージ同定」「具体例同定」**を育むための授業の実施  
 ～教科横断的で双方向からの指導となるように...～

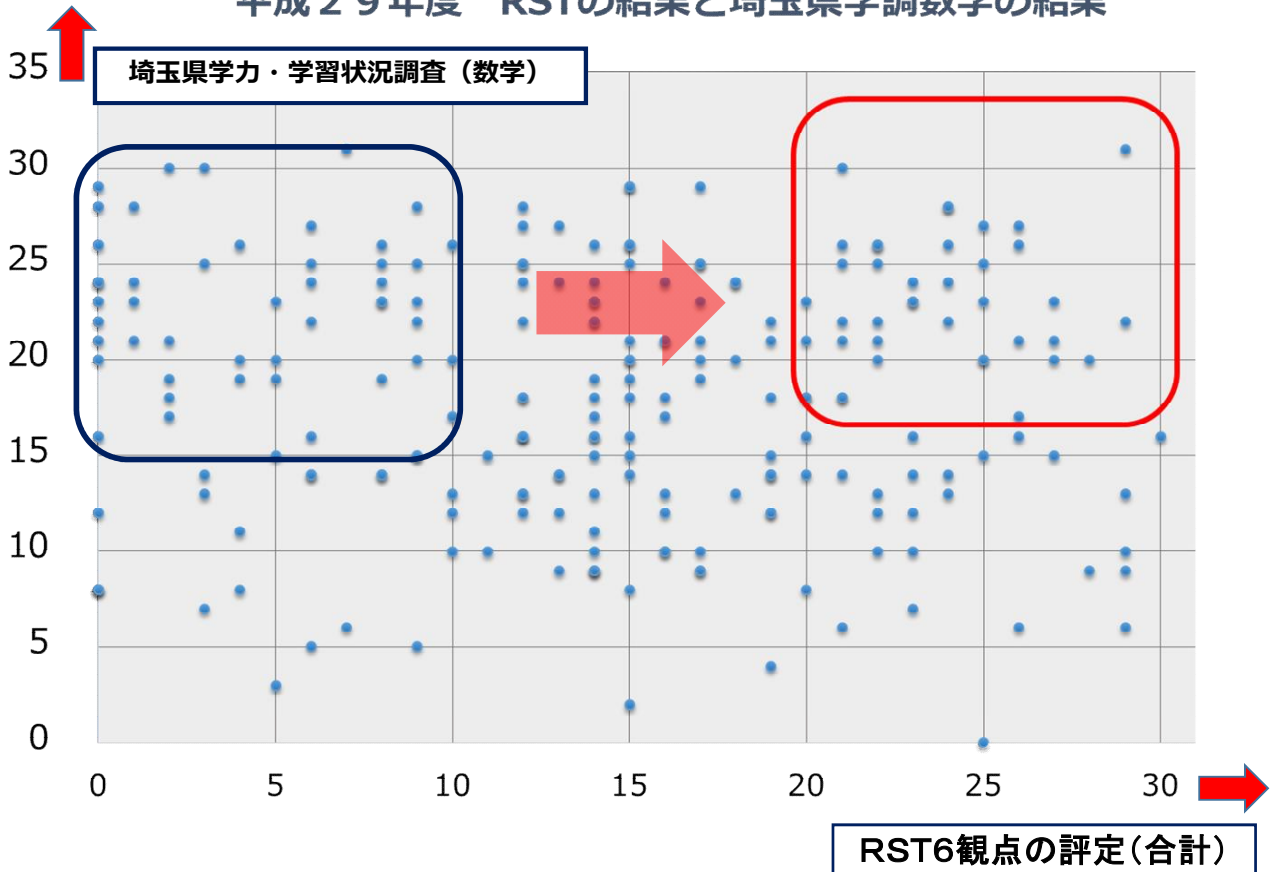


小4 「オセロの実況中継をしよう」



小4 「図形を並べよう」

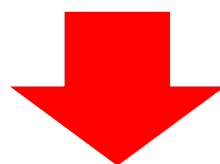
平成29年度 RSTの結果と埼玉県学調数学の結果



具体的な指導方法について・・・

- **比較的長い文章**を読み取り、**自分の考えをかく活動**を設定する。
- 『**条件不足・条件過多**』の問題文を提示する。
- 文章を読み取り考えていく過程で、**読み取ったことを整理**するために、**図的表現**を用いるようにする。
- 主語が書かれていない文章は、教師が意図的にその文章の主語を**問うたり、補うように指示したり**する。

『平成29年 戸田市研究集録 (p5) より』



指導のポイント

**児童生徒が考える機会をより多く設定する。**

### 全国学調の算数の問題を活用してRSを育む

どちらの学校の子どものほうが本をよくかかっているといえるか。

4月から7月までの4か月間の各学校の本の貸出冊数の様子

表1「各学校の月ごとの貸出冊数(冊)」

学校	4月	5月	6月	7月	合計
A小学校	986	2918	3414	2420	9738
B小学校	849	2523	2938	2095	8405

表2「A小学校の本の種類ごとの貸出冊数(冊)」

種別	科学	歴史	伝記	その他	合計	
A小学校	3800	1977	1496	989	1476	9738

1 各学校の、図書館を利用した人数  
2 各学校の、学校全体の児童数  
3 各学校の、図書館にある本の冊数  
4 各学校の、本の種類ごとの貸出冊数

資料を読み、児童が判断する場面を設定した。

平成28年度全国学力・学習状況調査(算数B問題)を基に授業者が作成した問題

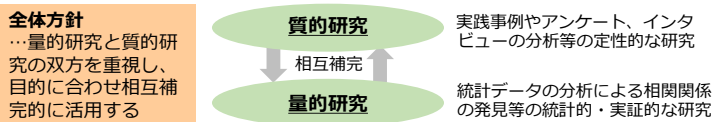


ORSの6つの観点の一つである【イメージ同定】を育む授業  
○グラフや文章から正しく情報を得て、判断する場面を設定する。(選択する場面を設定)

### 戸田市におけるEBPM (Evidence-based Policy Making) の推進

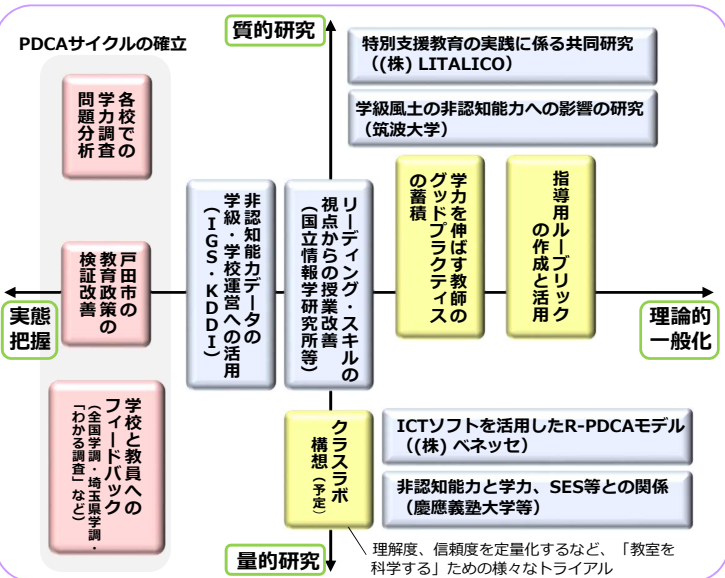
#### 戸田市におけるEBPMの考え方

目的…「経験と勘と気合い」(3K)による教育実践や施策立案から脱却し、エビデンスに基づく効果的・効率的な教育改革を推進すること



※「量的研究」と「質的研究」は戸田市における造語で、実証研究と非実証研究にほぼ該当するイメージである。

#### 戸市市のEBPM取組マップ



※横軸に研究の目的に関するアプローチ(実態把握と理論的一般化)、縦軸に手法に関するアプローチ(質的研究と量的研究)をとり、現行の取組を配置

#### 3つの目的別アプローチ

- 1) 実態把握: 調査結果等のデータを活用することで課題や実態を把握・分析し、PDCAサイクルにつなげる(→①)
- 2) 理論的一般化: 実際の教育実践の事例を研究することで、優れた指導法等に関する知見の積み上げ(→②)や教育改革への新たな視点の発見(→③)につなげる

① PDCAサイクルの確立

教育委員会、学校、教師の3者それぞれについて、各種調査等に基づくフィードバックを行い、取組の成果や現状の立ち位置を把握することによって、課題発見と取組の改善につなげるPCDAサイクルを構築する。

教育委員会レベル	各施策について成果指標を定め、市全体に関するデータをもとに、教育施策の改善に役立てる。
学校レベル	各種調査の学校ごとのデータを学校にフィードバックし、学級経営や学校運営、学力向上策に役立てる。
教師レベル	埼玉県学力調査等によるクラス全体の伸びを教師にフィードバックし、日々の授業改善に役立てる。

② 授業改善に係る知見の一般化・規準化

授業改善等のための重要なポイントを一般化・規準化する。(言い換えれば、ベテラン教師の経験や優れた勘、匠の技(指導技術)などを可視化・言語化・定理化する。)これによる規準を教員の日常的な授業改善の参考にしたたり、授業の自己・他者評価のツールとして活用したりすることで、知見を見える化し、学校や世代を超えて積み上げる。

(取組例)  
○「指導用ルーブリック」…アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善のため、6つの授業に対する延べ100人以上による評価表をベースに重点事項をまとめた指導用ルーブリックを本市独自で作成。これを研究授業や校内研修において活用。  
○グッドプラクティスの共有…県の学力調査のデータから、特に学力を伸ばしている教師を複数選出し、授業での心がけ等について聞き取り、ポイントを整理・共有。

③ 教育改革の新たな視点の発見

非認知能力の学力への影響、アクティブ・ラーニングの有効性、リーディング・スキルへの課題発見など、様々な共同研究の成果やそのプロセスにおいて発見された、今後の教育改革に対する新たな気づきをさらに掘り下げて、新たな研究材料とする。

(取組例)  
○リーディング・スキルの視点からの授業改善…国立情報学研究所等のリーディング・スキル・テストによる子供の読解力への課題発見を契機に、当該テストの視点を取り入れた授業改善の手法を各学校での実践に基づき研究。  
○特別支援の視点からの授業改善…企業と連携し、ユニバーサルデザインに基づく学級経営とその成果検証を行うことによって今後の全体の授業改善に役立てる。



# 「教育政策シンクタンク」構想

## 設置趣旨

戸田市の教育行政におけるEBPM（Evidence-based Policy Making）の推進の核とするため、これを専門的に担う人材から成る「教育政策シンクタンク」を立ち上げ、より効果的・効率的な教育政策の企画立案を行うとともに、市民への説明責任を果たす。

## 設置意義

教育委員会  
内部における  
基本的な  
調査分析機能

### 主導性

教育政策全体のEBPMに関する構想の企画と実行を主導することができる。また、個々の研究者等との共同研究においても、本市にとってより効果的な形での連携を行うことができる。

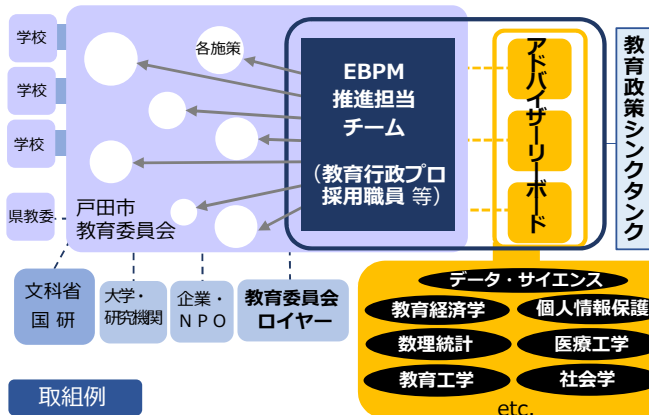
### 機動性

外部研究者等との共同研究は一大プロジェクトとして行われることが多いが、自前の調査研究では、小さな規模のものも含め、より日常的に、機動的に行うことができる。

### 実効性

本市における教育課題や個々の教育施策に直接結びつけた形での調査分析を行えるため、分析結果によるエビデンスをより実効的に教育施策に活かすことができる。

## 体制



## 体制の3つのポイント

### ◎教育委員会内部のEBPM推進担当チーム

EBPMは担当チームが専属的に行うものではなく、教育委員会が所管するすべての学校教育施策の基本的な考え方として浸透し、教育委員会及び学校の職員全員によって実行されるものであり、EBPM担当チームがその推進役及びとりまとめ役としての立場を担う。EBPM担当チームは、事務職（教育棟）を含める教育改革の政策担当の職員が兼務する。

### ◎外部アドバイザーとの連携

産官学からEBPMの政策立案に優れた外部有識者を委嘱し、日常的なアドバイザーとして教育政策シンクタンクのメンバーとなっていく。また、必要に応じて外部有識者によるアドバイザーレポートを設置する。

### ◎産官学の外部機関等との連携

専門性の高い研究や規模の大きな研究等については、外部の知のリソースを積極的に活用し、産官学の外部機関との連携を行う。その際には、調査分析のデザインの調整について主体性を持って調整する。

## 取組例

- ・教育活動の多様な成果を多角的に分析するとともに、数値化できるデータ・調査結果のみならず、数値化が難しいものも含め、現場感覚をもった的確に状況を把握する。
- ・データの標準化や一元化（ワンソース・ワンマスタ）と二次利用促進（オープンデータ化）
- ・データの集約・提供体制等に関する改革の推進



# 戸田型授業改善モデル（AL指導用ルーブリック）

## アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点からの**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。  
視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

### 1 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。

#### 【目指すべき目標・評価標準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標（資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」）が設定できたか。
- 本時の目標が達成できているか評価できるような評価規準が設定できたか。
- 子供の学習意欲を高められるような導入場面であったか。（学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など）

### 2 子供が自分の考えを表現することができていたか。

#### 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、（主につまずいている子供たちへの）支援方法を準備し、実行することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の達成につながっていたか。

### 3 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。

#### 【主に対話的な学びの視点】

- 子供たちの考えを広げ深められるような、学習形態（個人、ペア、グループ、全体）は設定できたか。
- 子供たちの考えを広げ深められるよう、教具（タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等）を工夫し用いていたか。
- 子供たちの考えを板書（ホワイトボード等で示すことも含む）できたか。

### 4 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。

#### 【主に深い学びの視点】

- 子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。
- 子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。

### 5 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。

#### 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿を評価することができたか。
- 評価するための方法や場面を設定することができたか。
- 子供たちが本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。

文部科学省平成28～29年度委託事業  
教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニング  
の視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究  
実施報告書

実施地域 埼玉県戸田市

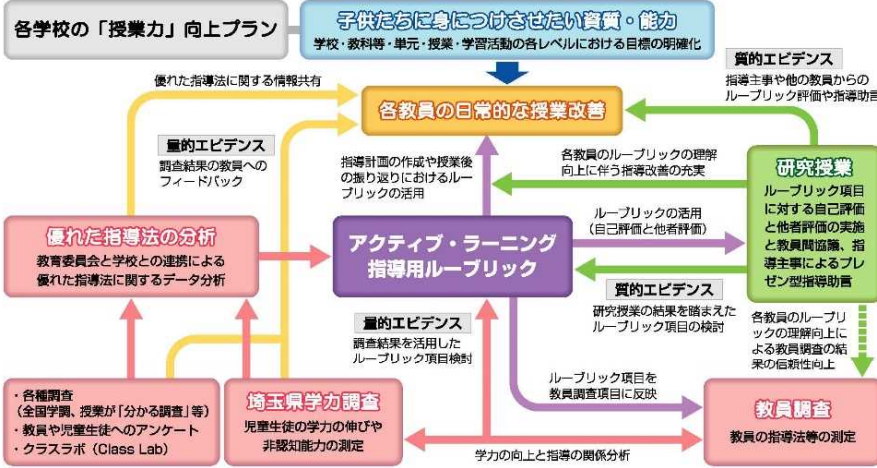
平成30年3月  
戸田市教育委員会



# アクティブ・ラーニング推進のための戸田型授業改善モデル



## ◆戸田型授業改善モデルのイメージ



## ◆戸田型授業改善モデルの5つのポイント

- 1 子供たちに身につけさせたい資質・能力の明確化**  
 \* 子供たちに身につけさせたい資質・能力を、学校→教科等→単元(題材)→授業→具体的な学習活動の各レベルにおいて明確化し、授業の目標を設定する。
- 2 ルーブリックの中核化**  
 \* アクティブ・ラーニング推進のための本市独自の指導用ルーブリックを、各教員の日常的な授業改善、研究授業、教員調査等のすべての取組をつなぐための拠り所とする。  
 \* 研究授業、授業研究会、校内研修等の取組を通じて、ルーブリックの理解(=アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善についての理解)を効果的に深める。
- 3 各教員へのフィードバックの充実**  
 \* 授業改善に向けた気づきを生む各教員へのフィードバックを重視する。  
 \* ベテランの学級経営指導員・児童館の指導員、研究授業の結果などの量的エビデンスや、授業後の子供たちの振り返りや研究授業における自己評価と他者評価に基づく協議結果などの質的エビデンスの双方の視点を取り込んだ効果的な情報の組み合わせによるフィードバック手法を検討する。
- 4 アクティブ・ラーニングへの理解を加速する質の高い研究授業**  
 \* 研究授業において授業者と観覧者がともにルーブリックを用いて評価し、その評価の違い等について協議すること、また研究授業と公開授業とも指導主事からルーブリックに沿ったプレゼンテーション型の指導を行うことで、アクティブ・ラーニングへの理解を一気に深める質の高い研究授業を実施する。
- 5 エビデンスベースでのルーブリックの継続的改善**  
 \* 教員調査にルーブリックの項目を盛り込み、調査結果による学力の伸びとの関係性を分析(量的エビデンス)。また、研究協議等における評価シート等のデータを蓄積(質的エビデンス)。これらをもとに、ルーブリックの項目について検証・改善を行う。

## ◆アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

授業改善モデルとしての「アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック」は、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行う際のチェックポイントをルーブリック形式にまとめたもの。今後も様々なエビデンスに基づき継続的に改善する。

### アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックより作成したチェックポイント表(平成30年度)

- 目指すべき目標、評価規準の設定等**  
 子供が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか  
指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できていたか。  
本時の目標が達成できているか評価規準が設定できていたか。  
子供の学習意欲を高められるような導入場面であったか。(学習関連や課題の工夫、提示方法の工夫など)
- 主に主体的な学びの視点**  
 子供が自分の考えを表現することができていたか  
本時の課題を正しく伝えることができていたか。  
自分の考えを表現することができるように、(主につまみ回している子供たちへの)支援方法を準備し、実行できていたか。  
自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定：ワークシート等の準備ができていたか。  
学習活動は、目標の達成につながっているか。
- 主に対話的な学びの視点**  
 子供が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか  
子供たちの考えを広く深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できていたか。  
子供たちの考えを広く深められるよう、教具(タブレットPC・ホワイトボード・ワークシート・具体物等)を工夫し活用していたか。  
子供たちの考えを板書(ホワイトボード等で示すことも含む)できていたか。
- 主に深い学びの視点**  
 子供が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか  
子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。  
子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか。  
子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化すること(板書・口頭等)はできたか。
- 学びの評価・振り返り**  
 子供が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など学びの成長や課題を実感していたか。  
評価規準・評価計画に基づき、本時の子供たちの姿を評価することができたか。  
評価するための方法や場面を設定することができていたか。  
子供たちが本時の学習を振り返ることができるような場面が設定できたか。

(注) ルーブリックは、平成28・29年度の文部科学省委任事業「教科等の本質的な学びを促進するための実践研究」の成果として、指導方法の改善のための実践研究を通じ、本市独自で作成。アクティブ・ラーニング推進員、学校管理職、研究主任等が特色ある7つの授業について観察、評価、協議を行うことで作成された約100枚の評価シートから、教科横断的かつ重要な授業要素を段階的に協議・検証し抽出した。

# 戸田型授業改善モデル (戸田市学力向上プラン)

### 平成30年度 戸田市立笹目小学校 授業力向上プラン

**リテラシー Literacy**

- 文章や相手の意思や思いを読み解ける子
- 多様なアウトプットで表現できる子
- 一人一人を確実に伸ばす教師

**アクティブ・ラーニングの推進**

- 未来を生き抜く力を育成(資質・能力ベース)
- ベテランの学級経営指導員・児童館の指導員
- 伝統的な授業スタイルからA/Lへの(トランスシフト)

**多様なニーズへの対応**

- 学校のユニバーサルデザイン化(家庭・地域や外部機関との連携)

**学級経営・授業改善**

- 学級経営研修
- 員学力・学習状況調査を生かした学級経営
- ベテランの学級経営を学ぶ研修会の実施
- 授業改善公開日6月・9月(授業改善に向けた校内授業カンファレンス実施)

**取組**

- リーディングスキルテストを生かした授業改善**
  - リーディングスキルの考え方を授業に活かす研究推進
  - 全職員リーディングスキルテストを履修
  - 教科横断的アプローチで(国語科、社会科、算数科等)C
  - 他研究科との合同授業カンファレンス実施
- ワーキングメモリートレーニング**
  - 認知面からの学習支援
  - 毎朝5分の取組「学びやす」するための支援
  - 3年生以上リーディングスキルテスト
  - リーディングスキルテストを実施し把握促進

**ユニバーサルデザイン**

- 習小プランを基盤とした学校・学級づくり
- 習小スタンダードの継承
- 習小授業の基本構造の活用
- 個別支援シート(記録)で個別支援のPDCAサイクルの確立

**アクティブ・ラーニング推進の視点での授業改善**

戸田市アクティブ・ラーニング学習指導ルーブリック(Level2)をスタンダードに全教職員・全授業で

### 埼玉県学調から伸び・教科・領域・評価観点別で更なる学力向上のPointを探る

**子供たちに育みたい資質・能力**

## 授業力向上プラン

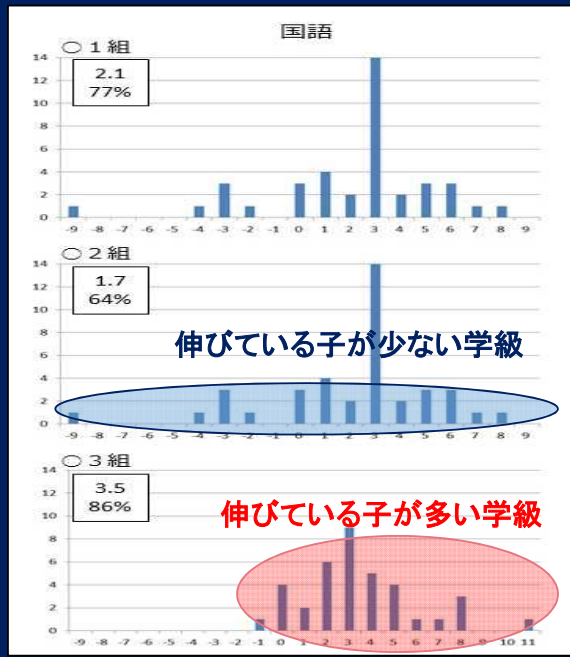
## 埼玉県学調結果分析

## 学力向上プラン



# 戸田型授業改善モデル（伸ばした教員のグッドプラクティスを共有）

## 児童生徒の伸びを調査



学級ごとに教科の学力の伸びをグラフ化

## 伸ばしていた教員（36名）へアンケート

平成30年度埼玉県学力・学習状況調査分析シート【「授業力」の分析】

### ◆教員A

○学力の伸びに影響を与えていると考えられる意識的な取組

#### <主に学習面>

- ①算数の授業では、自力解決時に児童が見通しをもてるようにすることを重視した。（特に学力が低い児童が見通しをもてるよう配慮した。）
- ②友達のを参考にする時間を積極的に設けた。（児童同士の声掛けも重視）
  - ・ギャラリウォーク（黙って見て回る）
  - ・フリーウォーク（自由に声を掛け合い歩き回る）
  - ・トライウォーク（教えに回る）
- ③授業中の児童への声掛けは意識して多くするようにした。
- ④授業に集中できる環境（温かい受容の雰囲気、励ましの雰囲気）を整えるよう意識している。
- ⑤教材研究では、授業の終わりの児童の姿を意識し、具体的な手立てを講じた。

#### <主に学級経営面>

- ⑥UD（ユニバーサルデザイン）化に努める。
  - ・学習環境のUD化（環境整備）
  - ・人的環境のUD化（学級経営）
  - ・授業のUD化（教材研究）
- ⑦家庭との連携も積極的に行い、子供と親との関わり組んだ。
- ⑧席替えは、教師主導で意図的に行っている。

管理職等・指導主事  
による特に学力を伸ばした先生方への聞き取り

ALループリックに関連した聞き取り

## 指導用ループリックに基づく授業づくりのポイント ～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

エビデンスに基づく授業改善の取組の一貫として、埼玉県学力・学習状況調査の結果及び指導用ループリックを活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（36名）へのインタビューを行った。そして、インタビュー内容を基に、効果的な指導方法（グッドプラクティス）等についてまとめた。

子供の学力を特に伸ばしている教師への3つの質問内容

- ① 指導用ループリックで重視する項目について。
- ② 授業づくりについて、普段意識していることは何か。
- ③ 学級経営（学級づくり）について、普段意識していることは何か。

### 1 指導用ループリックで重視する項目（割合）※1人が2つ選択

視 点	1 目指すべき目標・評価規準の設定等	2 主に主体的な学びの視点	3 主に対話的な学びの視点	4 主に深い学びの視点	5 学びの評価・振り返り
回答者の割合	69%	44%	31%	17%	39%

指導用ループリックで重視する項目については、「視点1 目指すべき目標・評価規準の設定等」の回答が69%と最も高く、子供の学力を特に伸ばしている教師の約7割が回答した。このことから、ループリックの5つの視点の中でも、授業前に**本時の適切な目標**や**評価規準を設定**することや、**学習意欲を高められるような導入場面**を設定することは特に効果的であることがわかる。



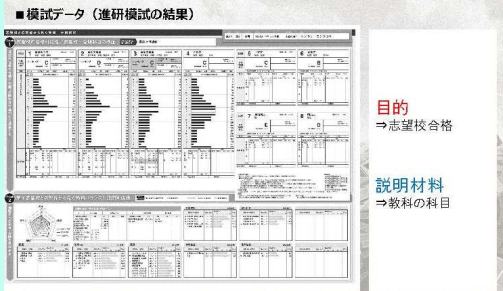


# 全国学力・学習状況調査データの活用

## 民間企業によるデータ活用研修会



数や並びの  
意味理解

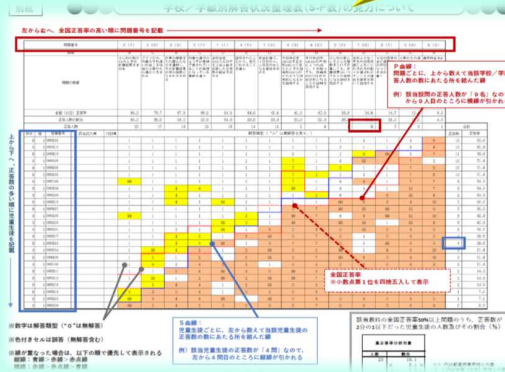


(株) ベネッセコーポレーション  
CRET 研究員 高橋 諒 様

## 国語、算数・数学担当 教員研修会



S-P表の  
理解と活用



全国学力・学習状況調査  
結果を用いた授業改善

## 全国学調を基にした教科書分析



## 報告書活用研修会



## 授業アイデア例を活用した授業研究会

